

FS 311

**STIHL**



2 - 38      取扱説明書



## 目次

1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	2
3	各機種に組み合わせ可能なカッティングア タッチメント、デフレクター、リミットスト ップおよびハーネス.....	13
4	バイク ハンドルの取り付け.....	14
5	スロットルケーブルの調整.....	16
6	デフレクターの取付け.....	16
7	カッティングアタッチメントの取付け.....	17
8	燃料.....	23
9	給油.....	24
10	フルハーネスの取付け.....	25
11	ユニットのバランス.....	25
12	エンジンの始動と停止.....	26
13	機械の運搬.....	28
14	作業中の注意事項.....	30
15	エアフィルター交換.....	30
16	キャブレターの調整.....	30
17	スパークプラグ.....	31
18	機械の保管.....	32
19	金属製カッティングブレードの目立て.....	32
20	カッティングヘッドの保守.....	32
21	整備表.....	34
22	磨耗の低減と損傷の回避.....	35
23	主要構成部品.....	36
24	技術仕様.....	37
25	整備と修理.....	37
26	廃棄.....	38
27	EC 適合証明書.....	38
28	アドレス.....	38

## 1 はじめに

## 1.1 シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料



デコンパルブの操作



手動燃料ポンプ



手動燃料ポンプの操作



グリースチューブ



インテークエア： 夏季作業



インテークエア： 冬季作業



ハンドルヒーター

## 1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

## 1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

## 2 使用上の注意および作業方法



本機は切断速度や回転速度が速いため、特別な安全措置を講じて負傷する危険を低減してください。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解してください。取扱説明書は、必要ときに参照できるように安全な場所に保管してください。取扱説明書の記載事項を遵守しないと、重傷や致命傷さえも負うことがあります。

現地で適用される安全規制(業界団体、社会保険機関、労働安全局等が定める規定)にすべて従ってください。

本機を初めて使用する場合：STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるが、専門的な研修に参加してください。

未成年者には絶対に本機を使用させないでください。ただし、監督下で作業を進める 16 歳以上の訓練生は例外です。

子ども、動物、見物人との間に安全な距離を確保してください。

油圧機は油圧使用  
油圧機は油圧使用  
油圧機は油圧使用

© ANDREAS STIHL AG & Co. KG 2023  
0458-433-4321-B: V44.L23

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないよう配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

第三者の事故/負傷またはその所有物の損壊を防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。本機の使用が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規則によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の操作者は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ペースメーカー着用者向けの注意点：本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを低減するために、STIHL 社ではペースメーカー着用者にかかりつけ医やペースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるアルコール、薬物、薬剤を服用した状態では、本機を使用しないでください。

装着したカッティングアタッチメントに応じて、パワーツールは芝、雑草、灌木、藪、茂み、径の小さい木々等の切断用にのみ使用してください。

**本機を他の目的に使用しないでください - 事故が起きる危険があります！**

STIHL 社がこのパワーツールに使用することを明示的に承認したか、技術的に同等のカッティングアタッチメントとアクセサリだけを装着してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正ツールとアクセサリの使用をお勧めしています。そうした純正品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。負傷する危険性が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対して一切法的責任を負いません。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

本機に取り付けたガードは、作業者を回転するカッティングアタッチメントによって飛散する物体（石、ガラス、ワイヤーなど）の一部からしか保護することはできません。物体が飛散し、作業者に当たるおそれがあります。

## 2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にぴったりフィットする衣服を着用してください。



木々、茂み、機械の可動部品に絡まるおそれがある衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具は身に付けしないでください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。



靴底が滑らない、爪先に鋼板の入った安全靴を履いてください。

草刈ヘッドを使用する場合に限り、靴底が滑らない頑強な作りの靴も着用できます。



**警告**



目を負傷する危険を低減するために、European Standard(欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

フェイスシールドを着用し、適切にフィットしているか確認してください。フェイスシールドだけでは眼を十分に保護できません。

「個人」用のイヤープロテクター（例えばイヤーマフ）を着用してください。

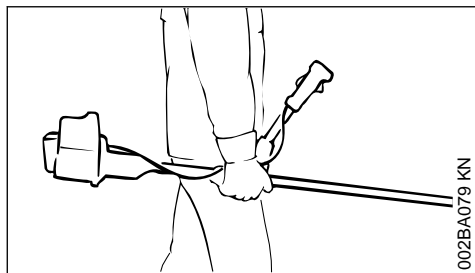
間伐作業や高い茂みで作業を行うときや、落下物で頭部を負傷する危険があるときは、安全ヘルメットを着用してください。



耐性素材（革など）でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服や防護装備を取り揃えております。

## 2.2 機械の運搬



必ずエンジンを切ってください。

機械のバランスが保たれるよう、ハーネスで吊り下げるか、シャフトを持って機械を運搬します。

切傷を負う危険を低減するために、短距離を運搬する場合でも、カッティングアタッチメントに運搬用ガードを取り付けてください。「機械の運搬」も参照してください。



機械の高温の部品やギヤボックスには触れないでください。**火傷をするおそれがあります！**

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐために機械を適切に固定してください。

## 2.3 給油



ガソリンは可燃性が極めて高い燃料です。火気を避けてください。燃料をこぼさないでください - 喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - **燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。**

タンク内の高压が徐々に抜け、燃料が噴き出さなくなるよう、燃料キャップは慎重に開けてください。

必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意してください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。



給油後は、燃料タンクキャップをしっかりと閉めます。

確実に閉めると、燃料タンクキャップがエンジンの振動によって緩むか外れ、大量の燃料が漏れ出す危険が低減されます。

漏れの有無を確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - **重度の**

**火傷または致命的な火傷を負うおそれがあります！**

## 2.4 作業開始前

パワーツールが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか点検します。本取扱説明書の関連する章を参照してください。

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ（手動燃料ポンプ付きの機械のみ）等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷が生じている場合は、エンジンを始動しないでください。**火災が起きる危険があります！** サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- 組み合わせが承認されているカッティングアタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネスのみを使用してください。すべての部品は、適正かつ確実に組み立てられている必要があります。
- 停止スイッチは容易に押すことができなければなりません。
- チョークレバー、スロットルトリガー、スロットルトリガーロックアウトがスムーズに作動するか点検します。スロットルトリガーは自動的にアイドル位置に戻らなければなりません。スロットルトリガーロックアウトとスロットルトリガーを握ると、チョークレバーが **Ⅰ** と **Ⅱ** の位置から運転位置 **Ⅰ** に戻らなければなりません。
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいる場合は火花が発生し、可燃性のガスに引火し、**火災が発生するおそれがあります！**
- カッティングアタッチメントまたは交換用アタッチメント：適正に取り付けられ、しっかりと固定されており、完璧な状態にあるか確認します。
- 安全装置（カッティングアタッチメント用デフレクター、ライダープレート等）に損傷や摩耗がないか点検します。損傷した部品は、必ず交換してください。損傷したデフレクターや摩耗したライダープレート（文字や矢印が確認不能）を取り付けたまま作業しないでください。
- 操作部や安全装置は、絶対に改造しないでください。
- ハンドルは乾いた清潔な状態（オイルや汚れが付着していない状態）に保ちます。この点は、機械を安全に操作するために重要です。
- ハーネスとハンドルを身長や手の長さに合うよう調整します。「ハーネスの取り付け」 - 「機会のバランスのとり方」の項を参照してください。

**負傷する危険を低減するために、損傷したパワーツールや適切に組み立てられていないパワーツールは使用しないでください！**

ハーネス使用時の緊急事態に備えるために：本機を素早く地面に降ろす練習をします。この練習中は、機械を地面に投げ降ろさないでください。機械が損傷するおそれがあります。

## 2.5 エンジンの始動

給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。

機械を屋外の安定した地面に置きます。バランスと安定した足場を確保してください。機械をしっかりと保持します。エンジン始動時に作動するおそれがあるため、カッティングアタッチメントを地面や他のあらゆる障害物に接触させないでください。

本機は一人で操作してください。機械から半径 15 m 以内には第三者を立ち入らせないでください。始動時も同様です！飛散物で**負傷する危険があります！**



カッティングアタッチメントに触れないでください。**負傷する危険があります！**



エンジンの落とし掛けをしないでください。取扱説明書に従って始動してください。スロットルトリガーを放した後、カッティングアタッチメントはしばらく回転し続けます。**慣性回転効果によるものです！**

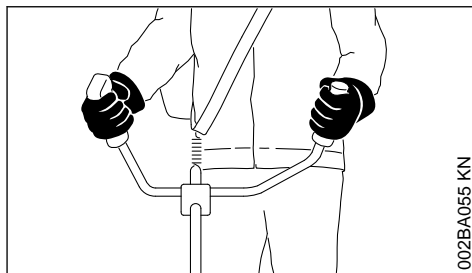
エンジンのアイドルリングを点検します：（スロットルトリガーを放した）エンジンのアイドルリング中は、カッティングアタッチメントは静止していません。

燃えやすい物（木屑、樹皮、枯れ草、燃料など）は高温の排気ガスや高温のマフラー表面に近付けないでください。**火災が生じるおそれがあります！**

## 2.6 機械の保持と操作

必ず両手でパワーツールのハンドルをしっかりと保持します。

足場が常に安全で安定しているか確認します。



右手でコントロールハンドルを握り、左手でハンドルバーのグリップを握ります。

## 2.7 作業時

足場が常に安全で安定しているか確認します。

危険が差し迫っている場合や緊急時は、停止スイッチを押して速やかにエンジンを切ってください。



作業エリア周辺の広範な場所には飛散物で事故が生じる危険があるため、機械の半径 15 m 以内には誰も立ち入らせないでください。この距離は、物体（車両、窓ガラスなど）に対しても維持する必要があります。**物的損害が生じる危険があります！** 15 m 以上離れた場所においても、危険は皆無ではありません。

エンジンが適切なアイドルリング状態になるか点検します。スロットルトリガーを放すと、カッティングツールは停止しなければなりません。

定期的なアイドルリング回転数の設定を点検し、修正してください。アイドルリング回転時にもカッティングアタッチメントが回転する場合は、サービス店に調整または修理を依頼してください。STIHL 社では、本作業を STIHL サービス店で実施されることをお勧めしています。

滑りやすい場所では、特に注意してください。例えば**濡れた面、雪や氷で覆われた面、斜面、凸凹のある地面**。

樹木の切り株や根などの障害物に注意してください。**つまずく危険があります！**

地面の上に立った状態でのみ作業を行い、はしごや可動式昇降台に乗った状態では絶対に作業しないでください。

イヤープロテクターを着用している場合は、危険を告げる声（叫び声、警笛など）が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください。そうしないと**事故が起こるおそれがあります！**



冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なき以外は作業を行わないでください。慎重に作業を進め、他者に危険が及ばないよう配慮してください。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があります。未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

**有毒ガスを吸い込んで重症または致命傷を負う危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は、適切に換気してください。**

吐き気、頭痛、視覚障害(視野狭窄等)、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガスを吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。**事故が生じるおそれがあります！**

機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください - 不必要にエンジンをふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

**火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では喫煙は避けてください。**燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

作業中に発生する塵埃、噴霧、噴煙は健康を害することがあります。大量の粉塵または噴煙が発生する場合は、呼吸保護具を着用してください。

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった(強い衝撃が加わるか、落下した)場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください(「作業開始前」も参照)。

特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。安全に操作できなくなったパワーツールは、絶対に使用しないでください。ご不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

始動スロットル位置でパワーツールを操作しないでください。この位置ではエンジン回転を制御できません。



飛散物によって**負傷する危険を低減するために**、使用するカッティングアタッチメントに合ったデフレクターが装着されていない場合は、絶対に機械を操作しないでください。



作業エリアを点検してください。岩や金属の物体などは挟まり、15 mを超える距離を飛散するおそれがあります。**負傷する危険があります！**そうした物体は、カッティングアタッチメントや他の器物(駐車中の車両、窓など)を損傷させることもあります。

作業が困難な、繁茂した場所での作業時は特に注意してください。

背の高い植え込み、植え込みの下側、生垣を刈払いするときは、動物を危害を加えないよう、カッティングツールを 15 cm 以上の高さで保持します。

機械から離れる場合は、必ずエンジンを切ってください。

カッティングアタッチメントは定期的かつ頻繁に点検し、明らかな変化に気付いたときはすぐに点検してください。

- エンジンを切り、機械を確実に保持し、カッティングアタッチメントが停止するまで待ちます。
- 状態と固定具合を点検し、亀裂の有無を確認します。
- ダイヤモンド研削チエンが鋭利な状態か確認します。
- 損傷しているか、切れ味が鈍くなったカッティングアタッチメントは、すぐに交換してください。細かなひび割れが見られる場合も同様です。

カッティングアタッチメントの取り付け部から定期的に草木の切れ端を取り除きます。カッティングアタッチメントとデフレクターに蓄積した異物は、取り除いてください。

**ケガの危険を低減するために**、エンジンを停止してからカッティングアタッチメントを交換してください。



作業中はギアボックスが高温になります。絶対にギアボックスに触れないでください。**火傷をする危険があります！**

回転する金属製カッティングアタッチメントが岩や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、可燃物が引火する可能性があります。特に乾燥した高温の気候下では、枯れた植物や茂みも引火します。火災の危険がある場合、可燃物、枯れた植物、茂みの付近で金属製カッティングアタッチメントを使用しないでください。火災が生じる危険性の最新情報に関して、必ず管轄森林管理事務所にお問い合わせください。

## 2.8 草刈ヘッドを使用する場合

取扱説明書に記載されている追加部品を装着してカッティングアタッチメントデフレクターを拡張します。

カッティングラインが承認されている長さに制限されるよう、ブレードが適切に取り付けられたデフレクターだけを使用してください。

手動調整式草刈ヘッドでは、必ずエンジンを切ってからカッティングラインを調整してください。

**負傷する危険があります！**

長すぎるナイロンラインを使用すると、エンジンの回転数が低下します。常にクラッチが滑ると、例えばアイドリング時のカッティングアタッチメントの回転によって重要部品（クラッチ、プラスチックハウジング部品など）が過熱したり、損傷したりします。**負傷する危険があります！**

## 2.9 金属製カッティングアタッチメントを使用する場合

STIHL 社では、STIHL 純正の金属製カッティングアタッチメントの使用をお勧めしています。そうした純正品は、機械とお客様の要件に対して最適化されています。

金属製カッティングアタッチメントは超高速で回転し、発生する力がアタッチメントと切断物に加わります。

金属製カッティングアタッチメントは、規定に従って定期的に目立てしてください。

均一に目立てされていない金属製カッティングアタッチメントはアンバランスになり、機械に極端に大きな負荷がかかることがあります。**損傷する危険があります！**

切れ味の悪い刃先や目立てが不適切な刃先はカッティングアタッチメントの負荷を高め、部品の亀裂や破損によって**負傷する危険**を増大させることがあります。

硬い障害物（石、岩、金属片など）に接触した後は、毎回、金属製カッティングアタッチメントに損傷（亀裂や変形など）が生じていないか点検してください。**負傷する危険を低減するために**、バリや他の目に見える堆積物は取り除いてください。それらは、作業中に剥がれて高速で飛散することがあります。

損傷や亀裂が生じたカッティングアタッチメントを引き続き使用したり、溶接、矯正、形状変更による修理を試みたりしないでください（アンバランスな状態が生じます）。

破片が高速で飛散して作業者や見物人に当たるとそれがあります。**重傷を負う危険があります！**

金属製カッティングアタッチメント使用時に上記の危険を低減するために、直径が大きすぎる金属製カッティングアタッチメントを使用しないでください。重すぎるカッティングアタッチメントも使用しないでください。高品質の素材で製造され、適切な形状（外形、厚み）でなければなりません。

**ケガの危険を低減するために**、STIHL 製以外の金属製カッティングアタッチメントを使用するときは、STIHL 社が本パワーツール用に承認した最大の金属製カッティングアタッチメントと比較して重量、厚み、直径がそれを上回っている製品や、形状が異なっている製品は使用しないでください。

## 2.10 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろく病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護（暖かい手袋）
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質（症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く）。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ（握む力が強いと血行が低下します）。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

## 2.11 整備と修理

定期的に本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業は STIHL サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けた STIHL サービス店のみに依頼されることをお勧めします。STIHL サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

当社では STIHL 純正の交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

不意にエンジンが始動してケガをする危険性を軽減するために、修理、保守、および清掃作業前に常にエンジンを停止して、スパークプラグターミナルを取り外してください。- 例外: キャブレターおよびアイドルリング回転数の調整時は例外です。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態で、スターターでエンジンを始動しないでください。火花を抑制できずに火災が発生する危険性があります。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィルターキャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプのスパークプラグだけを使用して、支障なく作動することを確認してください(「技術仕様」の項を参照)。

イグニッションケーブルに異常がないこと(良好な絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。-

高温のマフラーに触れて、火傷しないようにしてください。

振動の強さは、防振部品の状態に左右されますので、定期的に防振部品を点検してください。

## 2.12 デフレクター上の記号

デフレクター上の矢印は、カッティングアタッチメントの適正な回転方向を示しています。

デフレクターの外側には、承認されているカッティングアタッチメントとデフレクターの組み合わせを示す以下の記号の一部が表示されています。



デフレクターは草刈ヘッドと使用することができます。



デフレクターは草刈ブレードと使用することができます。



デフレクターはブラッシュナイフと使用することができます。



デフレクターはシュレッターブレードと使用することができます。



デフレクターは草刈ヘッドと使用してはなりません。



デフレクターは草刈ブレードと使用してはなりません。



デフレクターはブラッシュナイフと使用してはなりません。



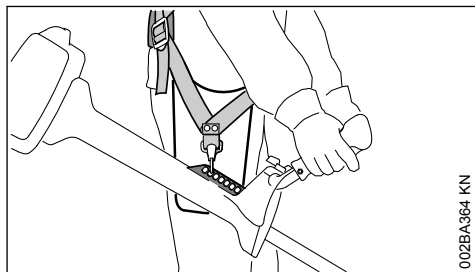
デフレクターはシュレッターブレードと使用してはなりません。



デフレクターはサーキュラーソーブレードと使用してはなりません。

## 2.13 ハーネス/ストラップ

ハーネスは、供給範囲に含まれるかまたは特殊アクセサリとして供給されます。



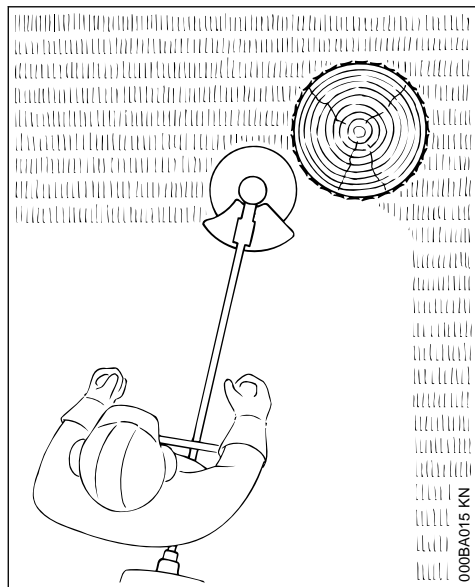
- ▶ 肩掛けベルトを使用します。
- ▶ エンジンをかけた状態では、本機を肩掛けベルトに吊り下げます。

草刈ブレード、ブラッシュナイフおよびシュレッターブレードには、必ず肩掛けベルトを使用してください。

サーキュラソーは、必ずクイックリリースシステム付きフルハーネスと組み合わせて、使用してください。



## 2.14 ナイロンラインを装備したカッティングヘッド



ナイロンラインにより、木やフェンス柵などの周囲の縁取りやトリミングをきれいに仕上げるためのソフトカットが可能です - 樹皮はほとんど傷付きません。

カッティングヘッドには取扱説明書が付属しています。取扱説明書の説明に従い、カッティングヘッドにナイロンラインを取り付けます。

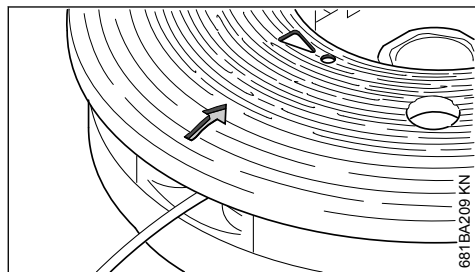


**警告**

絶対にナイロンラインの代わりに鉄製ワイヤーをしないでください。**重度の傷害の危険があります。**

## 2.15 STIHL デュロカット

磨耗限度マークに注意してください！



デュロカットの底板上付いている磨耗限度マークの一つ(感嘆符)が目視される状態になったときは、損傷するおそれがあるため、草刈ヘッドの使用を中止してください。

磨耗した底板を交換してください。

草刈ヘッドには取扱説明書が付属しています。取扱説明書に記載されている方法に従い、草刈ヘッドにナイロンラインのみを取り付けます。



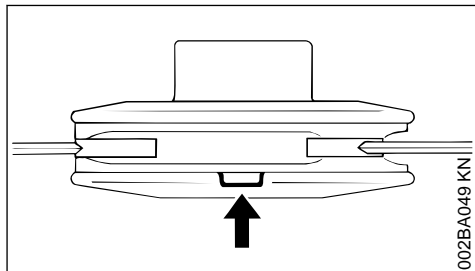
**警告**

ナイロン製カッティングラインの代わりに、絶対にワイヤーを使用しないでください - **ケガする危険があります。**

## 2.16 ポリマー ブレード付きスチール ポリカット カッティングヘッド

牧草の茂った草木の刈り込み用(生垣、フェンス、木々などの障害物がない場合)

磨耗限度マークに注意してください！



ポリカット カッティングヘッドの磨耗限度マークの1つでも、ベース側に穴(矢印)があいた場合: カッティングヘッドの使用を中止してください。新品と交換してください。そうしないと、カッティングヘッドからの飛散物で**ケガする危険**があります。

ポリカット カッティングヘッドの整備に関する注意事項を遵守してください。

ポリカットには、ポリマー ブレードの代わりにカッティングラインを装備することもできます。

カッティングヘッドには取扱説明書が付属しています。取扱説明書に従い、カッティングヘッドにポリマー ブレードまたはナイロンラインを取り付けます。

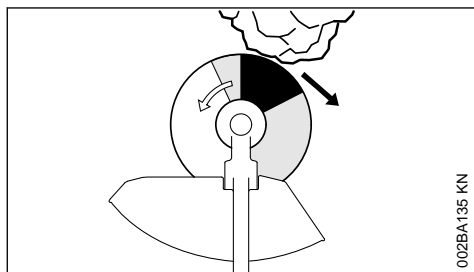
**警告**

ナイロン製カッティングラインの代わりにワイヤーを絶対に使用しないでください - ケガをする危険があります。

## 2.17 金属製カッティングアタッチメントの使用時の、キックバック(ブレードスラスト)の危険

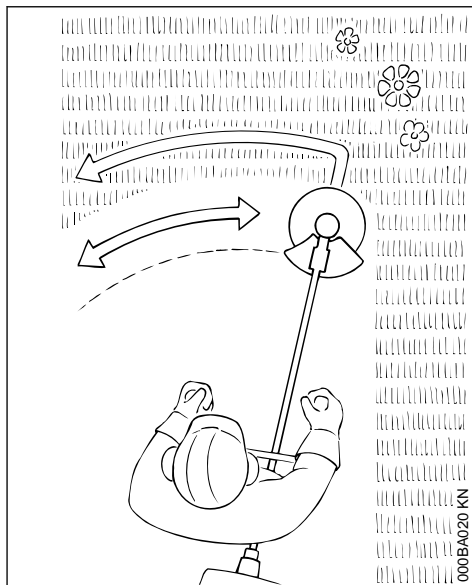
**警告**

金属製カッティングアタッチメントを使用する場合、回転しているブレードが硬い障害物(木の根や枝、切り株、石など)に当たるとキックバックの危険があります。機械は、アタッチメントの回転方向と反対の、右または後方に跳ね返ります。



回転しているカッティングアタッチメントが黒い色の範囲で硬い障害物に当たった場合、キックバックの危険性が一層高まります。

## 2.18 草刈ブレード



芝や雑草のみに使用します - 鎌のように円弧状に刈払機を振ります。

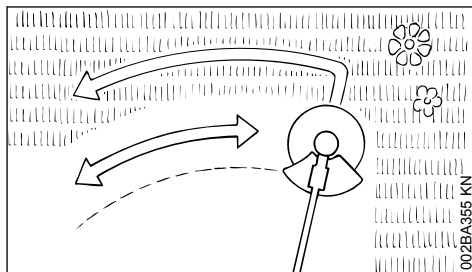
**警告**

不適切に刈払機を使用すると、草刈ブレードを損傷することがあります - 破損部分でケガをする危険があります。

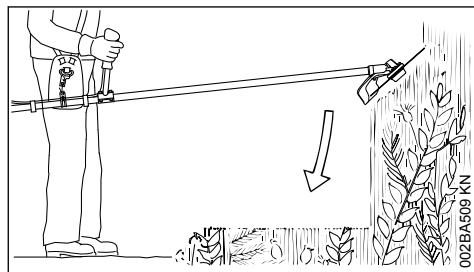
草刈ブレードの切れ味が明瞭に低下した場合は、規定通りに目立てしてください。

## 2.19 ブラシュ ナイフ

一面に生い茂った草、雑草と低木、幹の直径 2 cm 未満の幼木の切断に適しています - これより太い幹を切断しないでください - 事故の危険があります。



芝刈及び幼木の間伐時には、地面と同じ位置で鎌のように刈払機を動かしてください（左右に動かす）。



雑草および低木を切る場合、シュレッダー効果を得るために、ブラシュ ナイフを草木の上から下ろしてください - この過程では、カッティング アタッチメントを必ず腰より下のレベルに維持してください。

この方法で切る場合、特別に注意を払ってください。カッティング アタッチメントを地面から離せば離すほど、飛散物が吹き飛んでケガをする危険性が高まります。

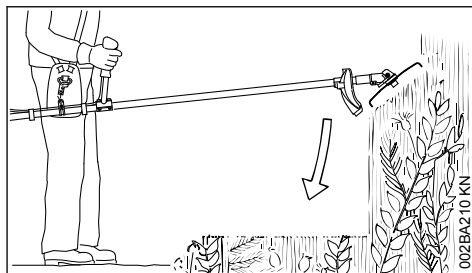
**警告！** 不適切なブラシュ ナイフの使用により、ナイフが割れたり欠けたり破損することがあります - 破損部分でケガをする危険があります。

ケガの危険を低減するため、以下に注意してください：

- 石、岩、金属片などの固い障害物に当たらないようにしてください。
- 直径 2 cm 以上の樹木や低木を切らないでください - このような作業には、サーキュラソー ブレードを使用してください。
- ブラシュ ナイフに損傷がないか頻繁に定期的に点検してください。損傷したブラシュ ナイフは使用しないでください。
- 切れ味が低下した場合や定期的なメンテナンスで、ブラシュ ナイフを目立てし、必要な場合はバリシングしてください (STIHL サービス店でされることを、お勧めします)。

## 2.20 シュレッダーブレード

固く一面に生えた草や低木の間伐および細断に最適です。



荒れた茂みや低木を切る場合、シュレッダー効果を得るために、シュレッダーブレードを草木の上から下ろしてください - この過程では、カッティング アタッチメントを必ず腰より下のレベルに維持してください。

この方法で切る場合、特別に注意を払ってください。カッティング アタッチメントを地面から離せば離すほど、飛散物が吹き飛んでケガをする危険性が高まります。

**警告！** 不適切に刈払機を使用すると、シュレッダーブレードを損傷することがあります - 破損部分でケガをする危険があります。

ケガの危険を低減するため、以下に注意してください：

- 石、岩、金属片などの固い障害物に当たらないようにしてください。
- 直径 2 cm 以上の樹木や低木を切らないでください - このような作業には、サーキュラソー ブレードを使用してください。
- シュレッダーブレードに損傷がないか頻繁に定期的に点検してください。損傷した時点でシュレッダーブレードの使用を止めてください。
- 切れ味が低下した場合や定期的なメンテナンスで、シュレッダーブレードを目立てし、必要な場合はバリシングしてください (STIHL サービス店でされることを、お勧めします)。

## 2.21 サーキュラソー

雑草および低木切断用：

刈払機で使用する場合は、幹の直径が 4 cm 以下の樹木の切断に使用してください。

クリアリングソーで使用する場合は、幹の直径が 7 cm 以下の樹木の切断に使用してください。

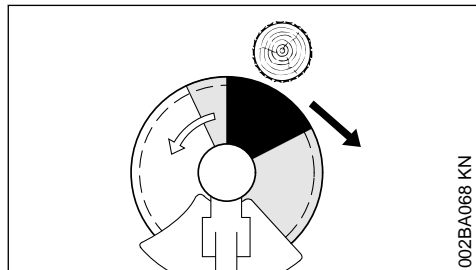
切断の前に、エンジンをフルスロットまで加速して、均一に前進すると理想的な切断成果が得られます。

直径に適合したリミットストップだけを取り付けたサーキュラソーを使用してください。

**警告**

ブレード損傷の危険を低減するため、石や地面に当たらないようにしてください。ブレードを適宜目立てしてください - 切れ味の悪い刃は、ブレードに亀裂や損傷を与えたり、ケガの危険があります。

伐倒作業時には、隣で作業する人と、最低でも木の高さ 2 本分の間隔をおいてください。

**2.21.1 キックバックの危険**

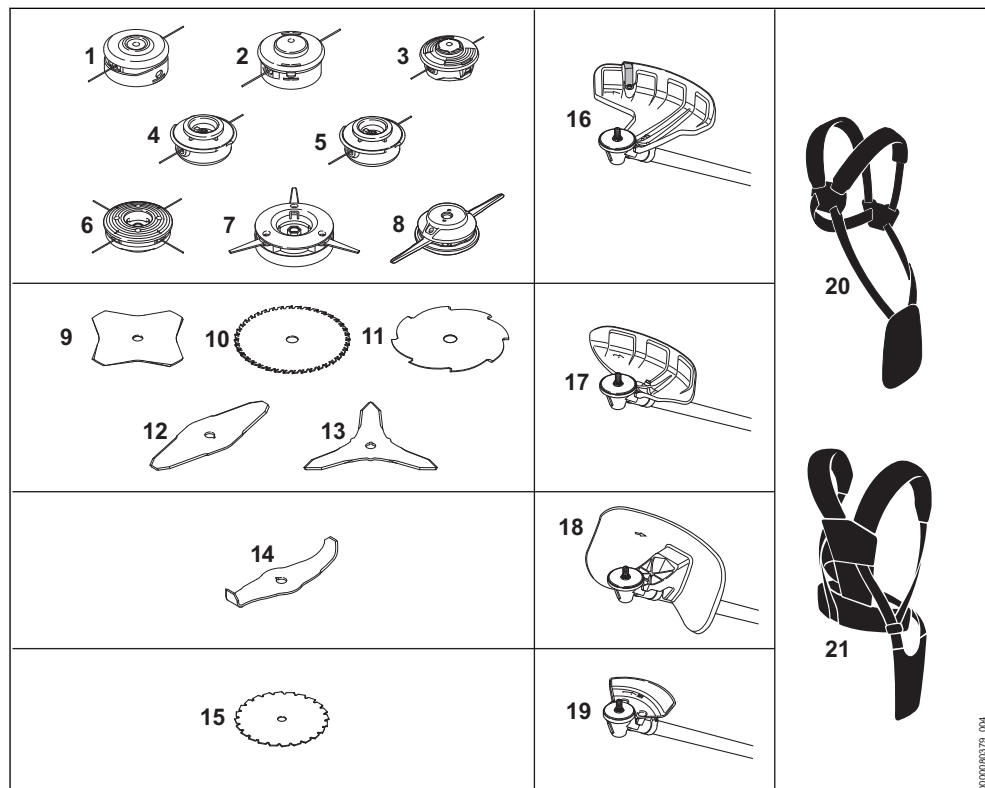
キックバックの危険は、ブレードの黒い色の範囲で最大となります: サーキュラソーブレードのこの範囲では切断しないでください。

ブレードの薄い影で表示された範囲を使用した場合も、キックバックの危険があります: ブレードのこれらの範囲は、熟練して特別のトレーニングを受けた作業者以外、使用しないでください。

スチール社では、サーキュラソー ブレードの影表示されていない部分の使用を推奨します。切断の開始時には、必ずブレードのこの部分を使用してください。

### 3 各機種に組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、リミットストップおよびハーネス

カッティングアタッチメント

デフレクター、リミット キャリングストラップ  
ストップ

#### 3.1 使用可能な組み合わせ

使用するカッティングツールに応じて、表から適切な組み合わせを選択してください！

**警告**

安全上の理由から、表の同じ行に記載されているカッティングアタッチメント、デフレクター、リミットストップのみを組み合わせ使用してください。それ以外の組み合わせは許容されません。**事故が起きる危険があります。**

#### 3.2 カッティングアタッチメント

##### 3.2.1 草刈ヘッド

- 1 STIHL SuperCut(スーパーカット) 40-2
- 2 STIHL AutoCut(オートカット) 40-2

- 3 STIHL AutoCut(オートカット) 46-2
- 4 STIHL TrimCut(トリムカット) 41-2
- 5 STIHL TrimCut(トリムカット) 42-2
- 6 STIHL DuroCut(デュロカット) 40-4
- 7 STIHL PolyCut(ポリカット) 41-3
- 8 STIHL PolyCut(ポリカット) 48-2

##### 3.2.2 金属製カッティングツール

- 9 草刈ブレード 230-4  
(Ø 230 mm)
- 10 草刈ブレード 250-32  
(Ø 250 mm)
- 11 草刈ブレード 255-8  
(Ø 255 mm)
- 12 ブラシユナイフ 305-2 Special



- (Ø 305 mm)
- 13 ブラシナイフ 300-3  
(Ø 300 mm)
- 14 シュレッダーブレード 270-2  
(直径 270 mm)
- 15 チゼル刃サーキュラソーブレード 200-22  
(4119)、チゼル刃サーキュラソーブレード  
200-22 HP (4000)

**警告**

非金属製の草刈ブレード、ブラシナイフ、シュレッダーブレード、サーキュラソーブレードは承認されていません。

### 3.3 デフレクター、リミットストップ

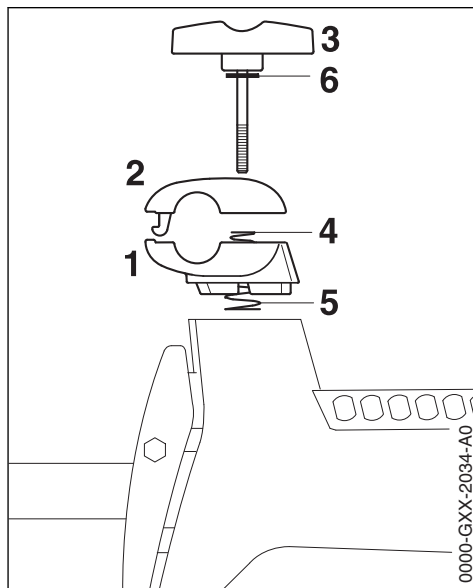
- 16 草刈ヘッド用デフレクター
- 17 草刈ブレード/ブラシナイフ用デフレクター
- 18 シュレッダーブレード用ガード
- 19 サーキュラソーブレード用リミットストップ

### 3.4 肩掛けベルト

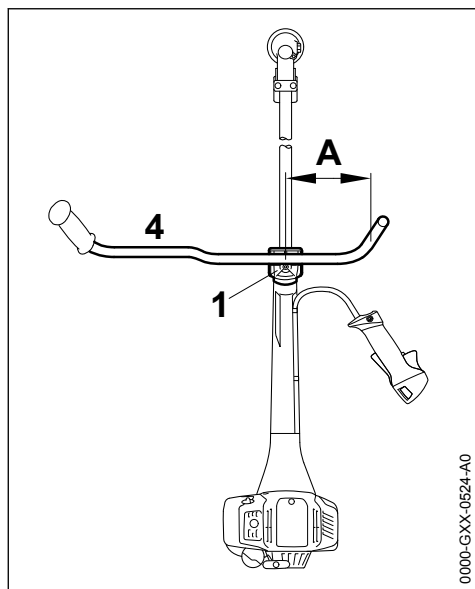
- 20 フルハーネスを必ず着用
- 21 フル「デラックス」ハーネスを必ず着用

## 4 バイク ハンドルの取り付け

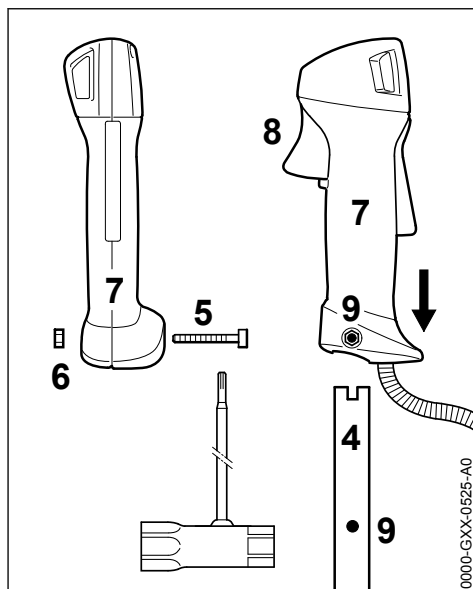
### 4.1 バイクハンドルの取り付け



- ▶ 下側クランプ (1) と上側クランプ (2) を共に確実に保持します。
- ▶ クランプ(ウイング)スクリュー (3) を緩めます。クランプスクリューが緩むと、クランプモールドイングも緩みます。クランプモールドイングは 2 個のスプリング (4 と 5) に押されて分離します。
- ▶ クランプスクリューを引き抜きます。ワッシャー (6) は、クランプスクリュー上に残ります。
- ▶ クランプモールドイングを分離させます。スプリング (4 と 5) は、下側クランプに付いたままになります。

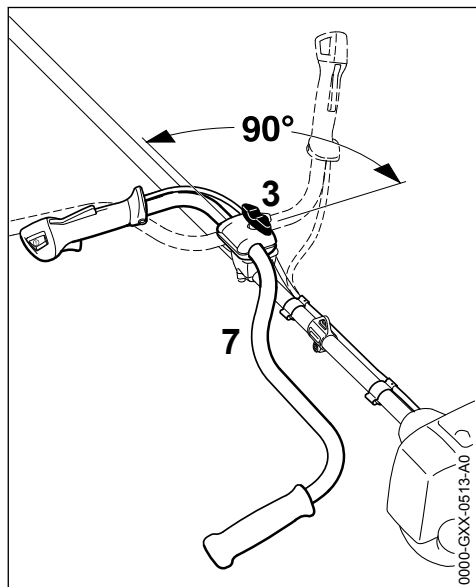


- ▶ ハンドルバー (4) を下側クランプモールディング (1) に取り付けます。距離 A を 15 cm (6 in) 以内に設定してください。
- ▶ 上側クランプモールディング (2) を所定の位置に合わせ、押し下げます。
- ▶ クランプスクリュー (3) を差し込みます。
- ▶ ハンドルバー (4) をドライブチューブと直角になる位置に合わせます。
- ▶ クランプスクリュー (3) を確実に締め付けます。



- ▶ スクリュー (5) を取り外します。ナット (6) はコントロールハンドル (7) 内に残ります。
- ▶ コントロールハンドルをハンドルバー (4) に押し込み、両方の穴 (9) を合わせます。スロットトリガー (8) をギアヘッドの方向を向けてください。
- ▶ スクリューを差し込み、確実に締め付けます。
- ▶ 「スロットルケーブルの調整」に進んでください。

## ハンドルバーを持ち運び位置へ合わせる



- ▶ ウイングスクリュー (3) を緩め、ハンドルバー (7) が回転する状態にします。
- ▶ ハンドルバーを反時計回りに 90° 回転させ、下げます。
- ▶ ウイングスクリュー (3) を確実に締め付けます。

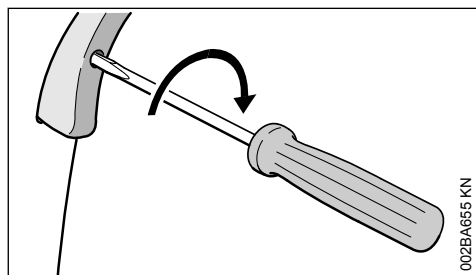
## ハンドルバーを作動位置へ戻す

- ▶ 上記の作業を逆順に行い、ハンドルバーを持ち上げ、時計方向に回転させます。

## 5 スロットルケーブルの調整

本機の組み立ておよび長期間の運転後に、スロットルケーブルの調整を修正することが必要になる場合があります。

本機が完全に適正に組み立てられた後に、スロットルケーブルを調整してください。

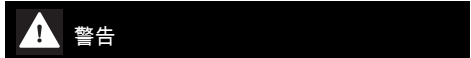
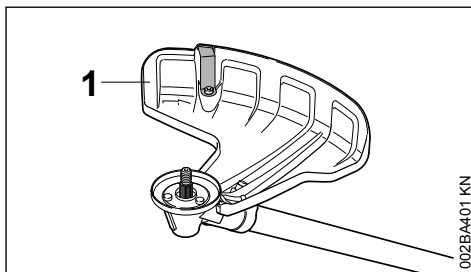


- ▶ スロットルトリガーをフルスロットル位置に設定します。

- ▶ スロットルトリガーのスクリューを、最初に手ごたえを感じるまで慎重に矢印の方向に回します。さらに同じ方向に半回転回します。

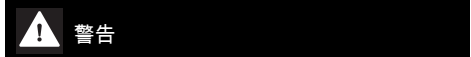
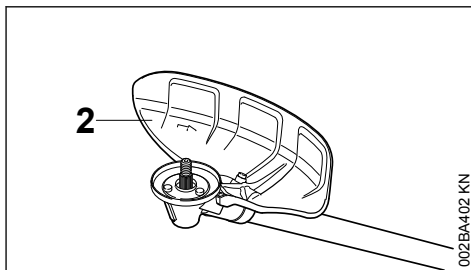
## 6 デフレクターの取付け

## 6.1 正しいデフレクターの使用



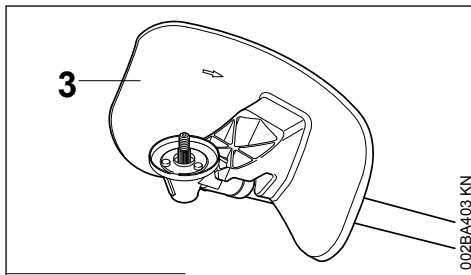
警告

デフレクター (1) は草刈ヘッドに対してのみ承認されているため、草刈ヘッドを取り付ける前に取り付ける必要があります。



警告

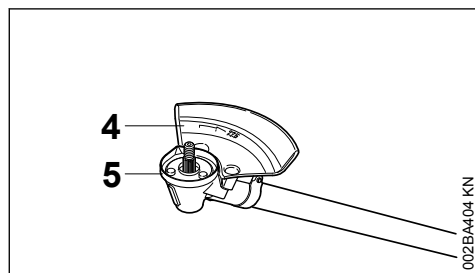
デフレクター (2) は草刈ブレードとブラッシュナイフに対してのみ承認されているため、草刈ブレードまたはブラッシュナイフを取り付ける前に取り付ける必要があります。





警告

デフレクター (3) はシュレッダーブレードに対してのみ承認されているため、シュレッダーブレードを取り付ける前に取り付ける必要があります。



002BA404 KN

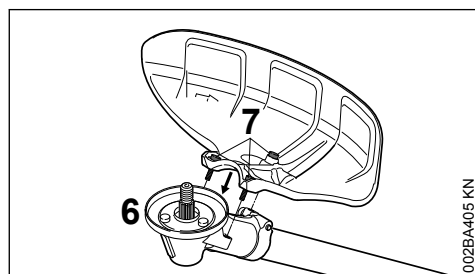


警告

リミットストップ (4) は、サーキュラソーブレード専用デフレクターとして承認されているため、サーキュラソーブレードを取り付ける前に取り付ける必要があります。ガードリング (5) も変更する必要があります - 「カutting アタッチメントの取付け」/「サーキュラソーブレードの取付け」を参照してください。

## 6.2 デフレクターの取付け

いずれのデフレクター (1 ~ 4) も同様の方法でギアボックスに取り付けます。

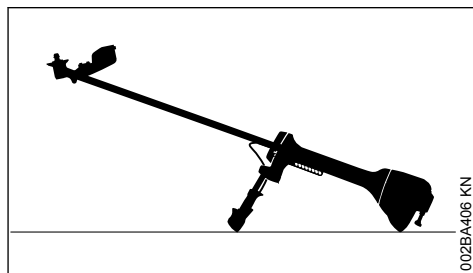


002BA405 KN

- ▶ ギアボックスとデフレクターのジョイントから汚れを取り除きます - ギアボックスのねじ穴に汚れが入らないよう注意してください。
- ▶ デフレクターをギアボックス (6) 上に置きます。
- ▶ スクリュー (7) を差し込み、しっかりと締め付けます。

## 7 カutting アタッチメントの取付け

### 7.1 パワーツールを地面に置く



002BA406 KN

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ カutting アタッチメント装着部が上向きになるように、パワーツールを置きます。

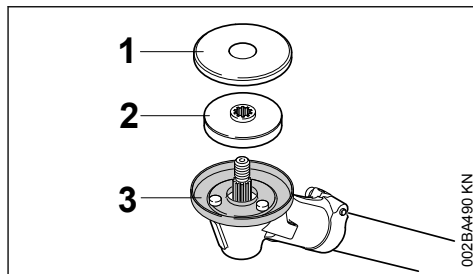
### 7.2 適切なガードリングの使用

パワーツールにはガードリングが標準装備されています。

ガードリングは、特殊アクセサリとしても入手することができます。

ガードリングの取付けには特別な注意が必要です。取付け作業はサービス店に依頼してください。STIHL 社では STIHL サービス店の利用をお勧めしています。

### 草刈用ガードリング



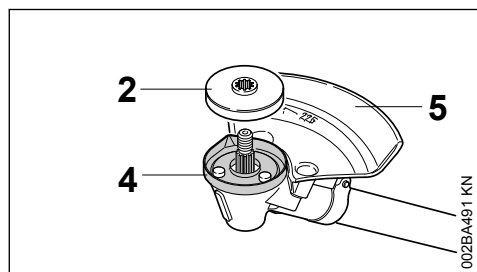
002BA409 KN

以下を使用するときは、必ずガードリング (1) を取付けてください。

- 草刈ヘッド
- 草刈ブレード
- ブラッシュナイフ
- シュレッダーブレード

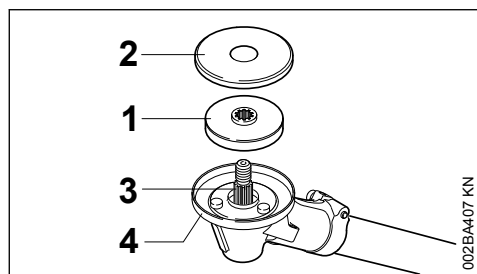
ガードリングは、草刈中の保護機能を最適化するために必要です。

## 鋸断用ガードリング



サーキュラソーブレードの使用時のみ、ガードリング (4) を取り付けてください。

### 7.3 スラストプレートとガードワッシャーの取付け



- ▶ スラストプレート (1) とガードワッシャー (2) をシャフト (3) に取付けます。

#### 注記

ギアボックスのスラストプレート (1) は、すべてのカutting アタッチメントを取り付けるときに必要です。

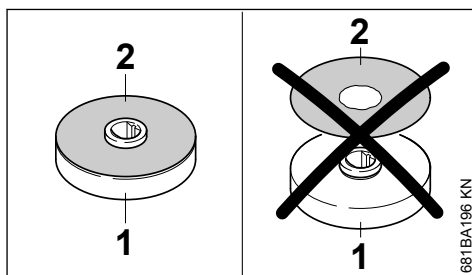
#### 注記

ガードワッシャー (2) は、以下を取り付けるときに必要です。

- 草刈ヘッド
- 草刈ブレード
- ブラッシュナイフ
- シュレッダーブレード

(ギアボックスへの取り付け時) ガードワッシャーは、サーキュラソーブレードの取り付け時には不要です。

### 7.4 スラストプレートの点検



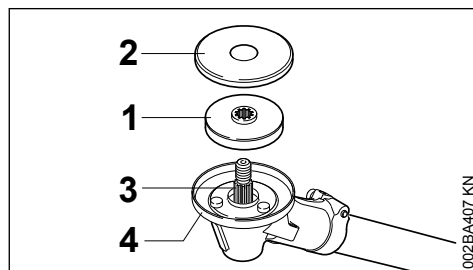
スラストプレートは、スラストプレート本体 (1) とそれに取り付けられているキャプティブガードワッシャー (2) で構成されています。



**警告**

スラストプレートは、絶対にガードワッシャーなしで使用しないでください。ガードワッシャーを紛失した場合は、必ずスラストプレートを交換してください。

## 7.5 ギアボックスのカuttingアタッチメント取り付け用部品の清掃

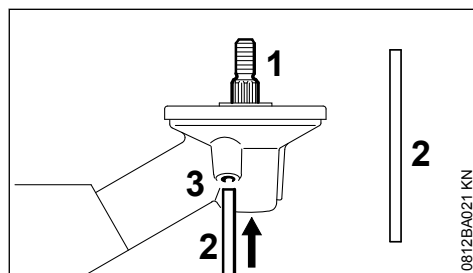


### 注記

定期的またはカuttingアタッチメントの交換時に、ガードリング (4) の内側と周囲に汚れが付着していないか点検し、必要に応じて掃除します。その際は、必要に応じて以下の手順に従ってください。

- ▶ ガードワッシャー (1) とスラストプレート (2) をシャフトから引き上げて外します。
- ▶ ガードリング、シャフト、スラストプレート、ガードワッシャーを入念に掃除します。ガードリングを取り外さないでください。

## 7.6 シャフトの固定



カuttingアタッチメントを着脱するには、出カシャフト (1) をストップピン (2) で固定する必要があります。ストップピンは機械に付属しており、特殊アクセサリとして入手することができます。

- ▶ 弱い力で押しながら、ストップピン (2) を止まるまでギアボックスの穴 (3) に差し込みます。
- ▶ ストップピンが所定の位置にはまりシャフトが固定されるまで、シャフトまたはカuttingアタッチメントをまわします。

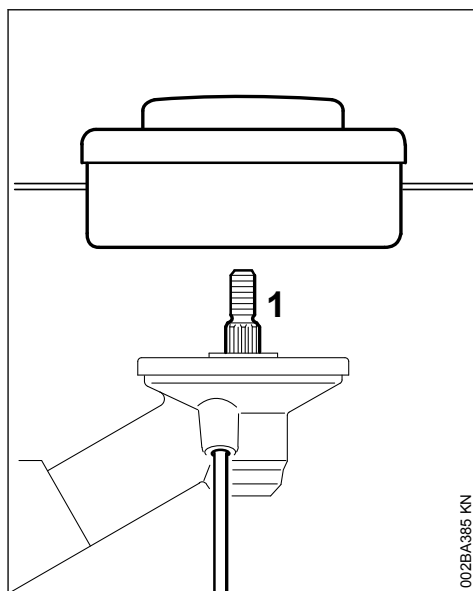
## 7.7 カuttingアタッチメントの取付け

**警告**

カuttingアタッチメントに適合するデフレクターを使用してください。「デフレクターの取付け」を参照。

## 7.8 スクリュー取り付け部付き草刈ヘッドの取付け

草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。



- ▶ スラストプレートを取り付けます
- ▶ 草刈ヘッドをシャフト (1) 上で止まるまで反時計回りにまわします
- ▶ シャフトを固定します
- ▶ 草刈ヘッドを締め付けます

## 注記

シャフトを固定するために使用した工具を取り外します。

## 7.9 草刈ヘッドの取り外し

- ▶ シャフトを固定します
- ▶ 草刈ヘッドを時計回りにまわします

## 7.10 金属製カutting アタッチメントの取り外しと取り付け

金属製カutting アタッチメントのパンフレットとパッケージは安全な場所で保管してください。



**警告**

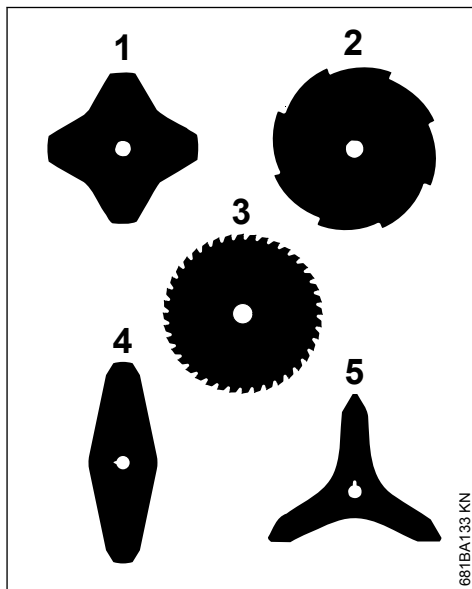
保護手袋を着用し、鋭利な刃先に直接触れる危険を低減します。

金属製のカutting アタッチメントを 1 個だけ取り付けてください。

## 7.11 草刈ブレード、ブラシュナイフの取り付け

草刈ヘッドだけが標準装備された新品機械に関する注意点：草刈ブレードまたはブラシュナイフを取り付けるには、「金属製カutting アタッチメント取り付けキット」が必要です。このキットは、サービス店から入手することができます。

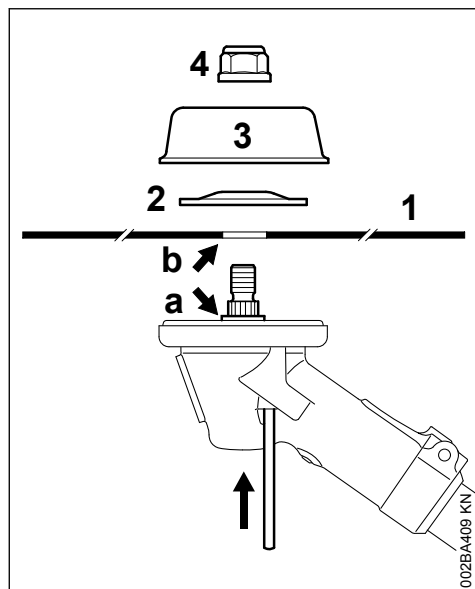
### カutting アタッチメントの回転方向の確認



図の 1、4、5 のカutting アタッチメントは、どちら向きにも取り付けることができます - これらのカutting アタッチメントは、片側だけが磨耗しないよう定期的に向きを変えて使用する必要があります。

2 と 3 のカutting アタッチメントの刃先は、時計方向に向ける必要があります。

- ▶ カutting アタッチメント用ガードリングを使用してください。



- ▶ カutting アタッチメント (1) を所定の位置に合わせます。

**警告**

カラー (a) をカutting アタッチメントの取り付け穴 (b) に合わせます。

#### カutting アタッチメントの固定

- ▶ スラストワッシャー (2) を取り付けます - 凸部を上側に向けてください。
- ▶ ライダープレート (3) を取り付けます。
- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ ナット (4) を取り付け、反時計回りに確実に締め付けます。

**警告**

取り付けナットが緩くなりすぎたときは、新品ナットに交換してください。

#### 注記

シャフト固定用ツールを抜き取ります。

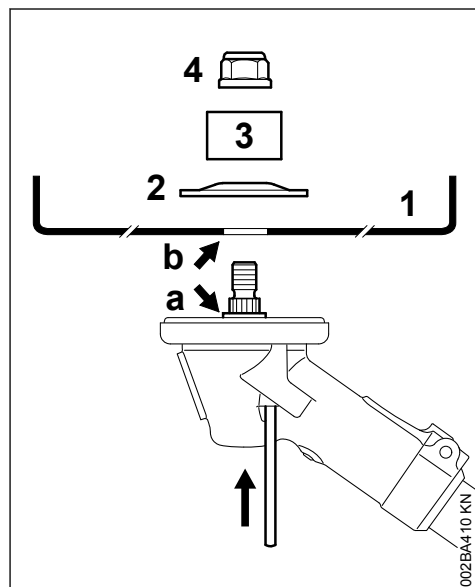
#### 7.11.1 カutting アタッチメントの取り外し

- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ ナットを時計回りに回転させて取り外します。
- ▶ ギアボックスから取り付け用部品と共にカutting アタッチメントを引き上げ、取り外します。

#### 7.12 シュレッターブレード 270-2 の取り付け

草刈ヘッドだけが標準装備された新品機械に関する注意点：シュレッターブレードを取り付けるには、「シュレッターブレード取り付けキット」に加えて「シュレッターブレード後付キット」が必要です。このキットは、サービス店から入手することができます。

- ▶ カutting アタッチメント用ガードリングを使用してください。



- ▶ シュレッターブレード (1) を所定の位置に合わせます - 刃先を上側に向けてください。

**警告**

カラー (a) をカutting アタッチメントの取り付け穴 (b) に合わせます。

#### カutting アタッチメントの固定

- ▶ スラストワッシャー (2) を取り付けます - 凸部を上側に向けてください。
- ▶ シュレッターブレードガードリング (3) を取り付けます - 開口部を上側に向けてください。
- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ ナット (4) を取り付け、反時計回りに確実に締め付けます。

**警告**

取り付けナットが緩くなりすぎたときは、新品ナットに交換してください。

**注記**

シャフト固定用ツールを抜き取ります。

**7.12.1 カutting アタッチメントの取り外し**

- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ ナットを時計回りに回転させて取り外します。
- ▶ ギアボックスから取り付け用部品と共にカutting アタッチメントを引き上げ、取り外します。

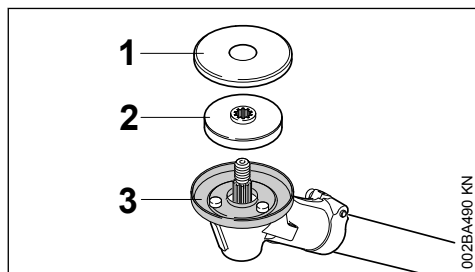
**7.13 サーキュラソーブレードの取り付け**

リミットストップキット (リミットストップとサーキュラソーブレード用ガードリングを含む) をサーキュラソーブレード取り付け用特殊アクセサリとして入手することができます。

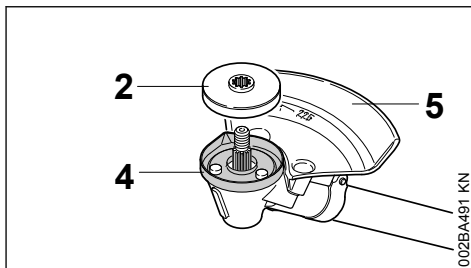
草刈ヘッドだけが標準装備された新品機械に関する注意点: サーキュラソーブレードには他の取り付け用部品が必要です。そうした部品は、サービス店から入手することができます。

**ガードリングの交換**

推奨事項: ガードリングの取り付けには特別な注意が必要です。取り付け作業はサービス店に依頼してください。STIHL 社では STIHL サービス店をお勧めしています。



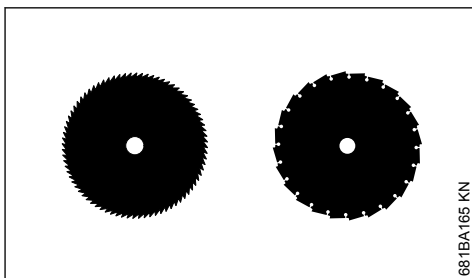
- ▶ ガードワッシャー (1) とスラストプレート (2) を取り外します。
- ▶ カutting アタッチメント用ガードリング (3) を取り外します。
- ▶ ガードワッシャーとガードリングは、将来の使用に備えて安全な場所で保管してください。



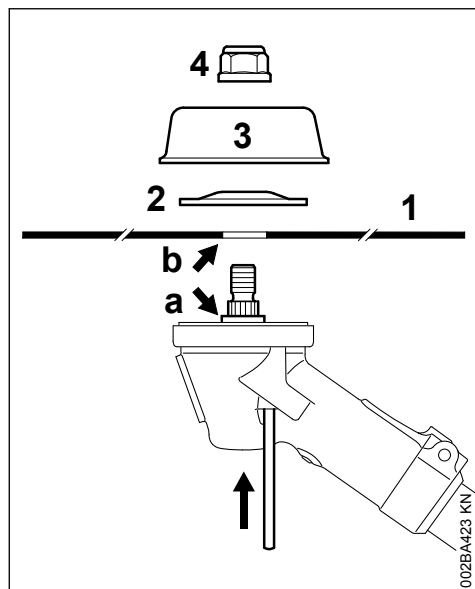
- ▶ ソーブレード用ガードリング (4) を取り付けます。
- ▶ スラストプレート (2) をシャフトに差し込みます。
- ▶ サーキュラソーブレード用リミットストップ (5) を取り付けます。

**注記**

サーキュラソーブレードにはガードワッシャー (1) を使用しないでください。

**カutting アタッチメントの回転方向の確認**

サーキュラソーブレードの刃先は、時計方向に向ける必要があります。



- ▶ カuttingアタッチメント (1) を所定の位置に合わせます。

**警告**

カラー (a) をカuttingアタッチメントの取り付け穴 (b) に合わせます。

### カuttingアタッチメントの固定

- ▶ スラストワッシャー (2) を取り付けます - 凸部を上側に向けてください。
- ▶ ライダープレート (3) を取り付けます。

ソーイング用ライダープレート (3) は、特殊アクセサリとして入手することができます。最大の切り込み深さでソーブレードを使用できるようになります。

- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ ナット (4) を取り付け、反時計回りに確実に締め付けます。

**警告**

取り付けナットが緩くなりすぎたときは、新品ナットに交換してください。

### 注記

シャフト固定用ツールを抜き取ります。

### 7.13.1 カuttingアタッチメントの取り外し

- ▶ シャフトを固定します。

- ▶ ナットを時計回りに回転させて取り外します。
- ▶ ギアボックスから取り付け用部品と共にカuttingアタッチメントを引き上げ、取り外します。

## 8 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。

**警告**

燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

### 8.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

### 8.2 燃料の混合

#### 注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

#### 8.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン (E27) を使用して本来の性能を発揮します。

#### 8.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP



Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

### 8.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください (オイル 1 に対してガソリン 50)。

### 8.2.4 例

ガソリン量 STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50

リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

- ▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

## 8.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

**混合燃料は時の経過に伴って劣化します** - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短期間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

- ▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



**警告**

携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

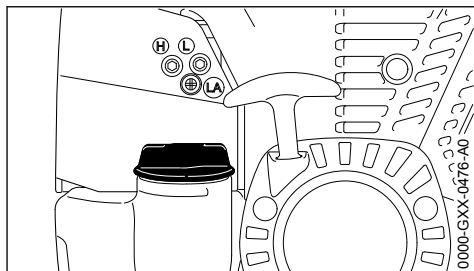
- ▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

## 9 給油

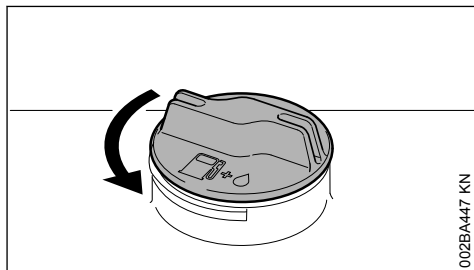


## 9.1 準備



- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐために、タンクキャップとその周囲を清掃してください。
- ▶ タンクキャップが上を向くように本機を置いてください。

## 9.2 タンクキャップを開ける



- ▶ タンク開口部から外れる状態になるまで、キャップを反時計回りに回転させます。
- ▶ タンクキャップを取り外します。

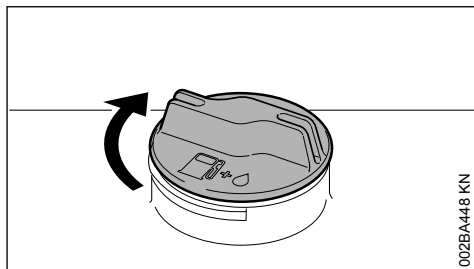
## 9.3 燃料の補充

給油時は、燃料をこぼしたり、あふれさせたりしないよう注意してください。

STIHL 社では、燃料用 STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

- ▶ 燃料を補充します。

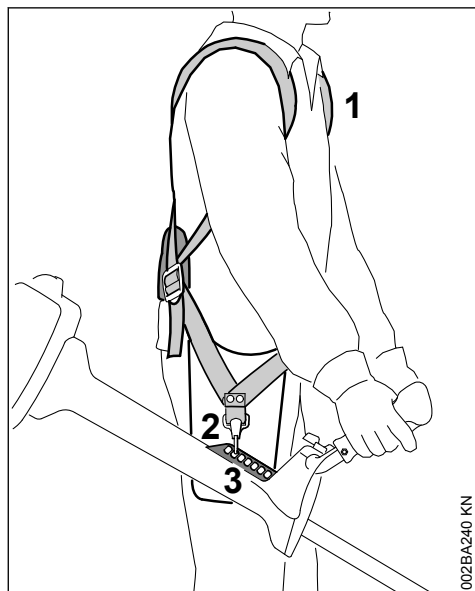
## 9.4 タンクキャップを閉じる



- ▶ キャップを開口部に載せます。

- ▶ キャップを時計回りに止まるまで回転させます。手でできるだけきつく締め付けてください。

## 10 フルハーネスの取付け



- ▶ フルハーネス (1) を着用します。
- ▶ ベルトの長さを調整して、スプリングフック (2) が、右腰から手幅分下の位置にくるようにセットします。調整後にベルトの長すぎる端部を切り取ることができます。
- ▶ スプリングフックを、本機の穴あきベルト (3) に取り付けます。

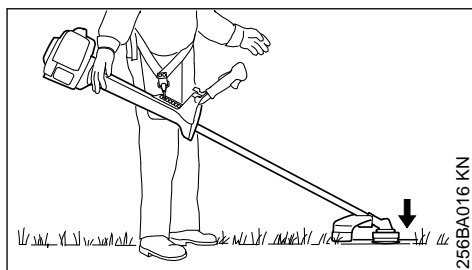
ご使用になっているカッティング アタッチメントの正しい位置に取り付けます - 「刈払機のバランスの取り方」の項を参照してください。

## 11 ユニットのバランス

使用するカッティング アタッチメントにより、装置のバランスの取り方が異なります。

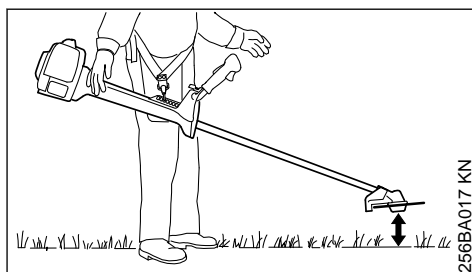
- ▶ ハーネスから装置を吊るした状態で、バランス状態をチェックし、必要に応じて取付位置を変更します：

### 11.1 カッティング アタッチメント



通常の作業姿勢で、カッティング ヘッド、草刈ブレード、ブラシュナイフ、シュレッダー ブレードが、地面に軽く触れる程度が最適なバランスです。

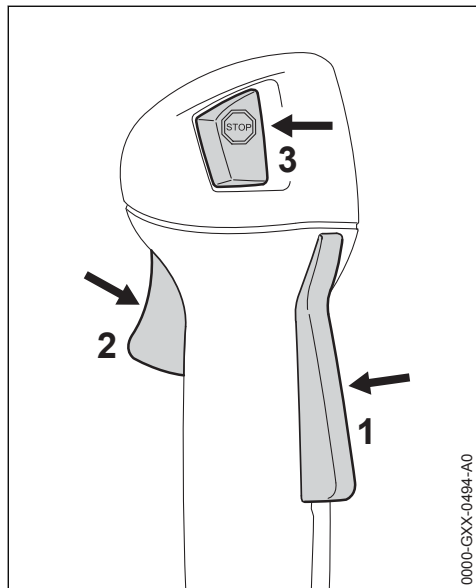
### 11.2 サークュラソー ブレード



サーキュラソー ブレード は、地面上約 20 cm の高さで「浮いている」必要があります。

## 12 エンジンの始動と停止

### 12.1 操作部



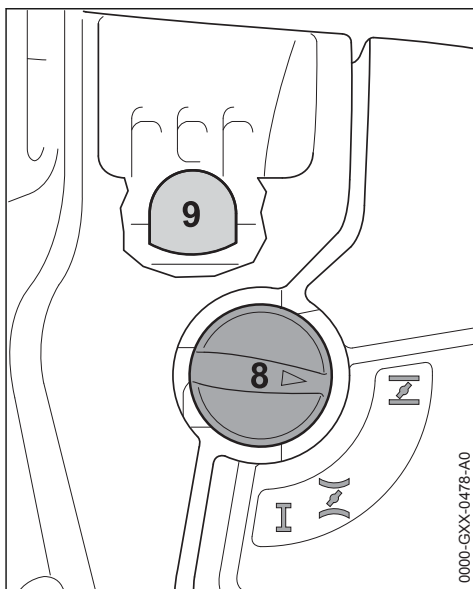
0000-GXX-0494-A0

- 1 スロットルトリガーロックアウト
- 2 スロットルトリガー
- 3 運転および停止位置の停止スイッチ。停止スイッチ (⊖) を押してイグニッションをオフにします - 「停止スイッチとイグニッションシステムの機能」を参照してください。

#### 12.1.1 停止スイッチとイグニッションシステムの機能

停止スイッチを押すと、イグニッションスイッチがオフになり、エンジンが停止します。停止スイッチを放すと、停止スイッチは自動的に通常運転位置に戻ります：エンジンが停止した後、イグニッションスイッチが再度オンになります - この状態では、エンジンの始動準備が整っています。

### 12.2 エンジンの始動



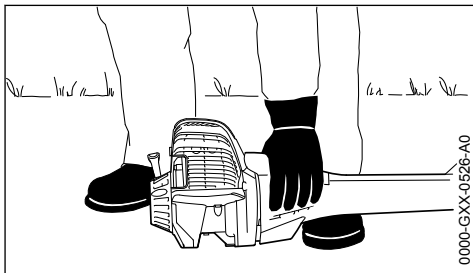
0000-GXX-0478-A0

- ▶ 手動燃料ポンプ (9) を最低 5 回押してください - ポンプにすでに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。
- ▶ チョークノブ (8) を押し込みながら、エンジン温度に適した以下の位置に回します：

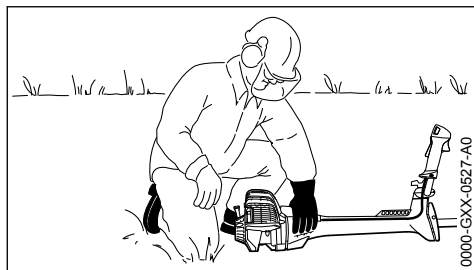
$\frac{I}{II}$  エンジンが冷えている場合  
暖機スタートの場合 - エンジン始動後、暖まりきっていない場合もこの位置を使用します。

チョークノブは、上記の位置に確実に合わせてください。

#### 12.2.1 始動操作



0000-GXX-0526-A0



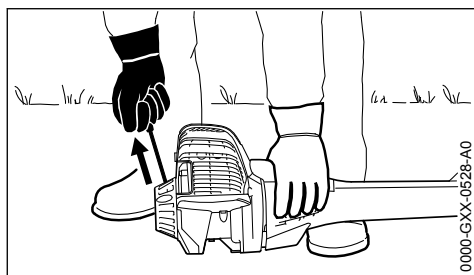
- ▶ 機械を地面に置きます: エンジンサポートとデフレクターを地面にしっかりと当てます。
- ▶ 装着されている場合: 運搬用ガードをカッティングアタッチメントから取り外します。

**事故が生じる危険を低減するために**、カッティングアタッチメントが地面あるいはその他の物体と接触していないことを確認します。

- ▶ 立つか、かがむか、ひざまずいて、安定した足場を確保します。
- ▶ 機械を左手で地面にしっかりと固定して、押し付けます - スロットトリガーやロックアウトレバーに触れないようにしてください - 親指をファンハウジング下部に当てて握ります。

#### 注記

ドライブチューブに足を載せたり、ひざまずいたりしないでください。



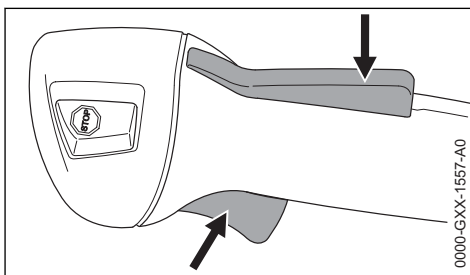
- ▶ 右手でスターターグリップを握ります。
- ▶ スターターグリップをゆっくりと引き、かみ合った感じがしたら、素早く勢い良く引っ張ります。

#### 注記

スターターロープは最後まで引き出さないでください - **切れるおそれがあります。**

- ▶ スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジング内にゆっくりと戻すと、スターターロープは適切に巻き込まれます。
- ▶ エンジンがかかるまで始動操作を続けます。

### 12.2.2 エンジンがかかったらすぐに



- ▶ スロットトリガーロックアウトを押し下げて、スロットルを開きます - チョークノブが運転位置 I に移動します。冷機スタートの後では、スロットルを数回開いてエンジンを暖めます。



#### 警告

エンジンのアイドリング中にカッティングアタッチメントが回転してケガをする危険があります。エンジンのアイドリング中にカッティングアタッチメントが回転しないよう、キャブレターを調整してください - 「キャブレターの調整」を参照してください。

これで機械の使用準備が完了しました。

### 12.3 エンジンの停止

- ▶ 停止スイッチ(モーメンタリースイッチ)を押します - エンジンが停止します - 停止スイッチを放します - 運転位置に戻ります。

### 12.4 始動に関するその他の注意事項

**エンジンが冷機スタート位置 I または加速状態でストールする。**

- ▶ チョークノブを II に移動して、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

**エンジンが暖機スタート位置 II でかからない**

- ▶ チョークノブを I に移動し、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

**エンジンがかからない場合**

- ▶ すべての設定が正しいか確認します。
- ▶ 燃料タンク内に燃料があるか確認し、必要に応じて給油します。
- ▶ スパークプラグターミナルが適正に接続されているか確認します。
- ▶ 始動手順を繰り返します。

**エンジン燃焼室への燃料吸い込みすぎ**

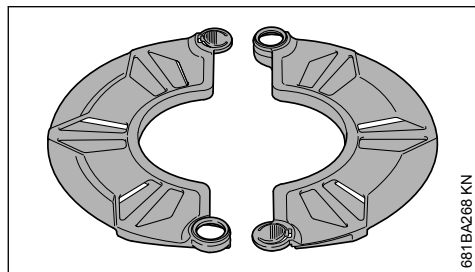
- ▶ チョークノブを I に合わせ、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

**燃料タンクが完全に空になった場合**

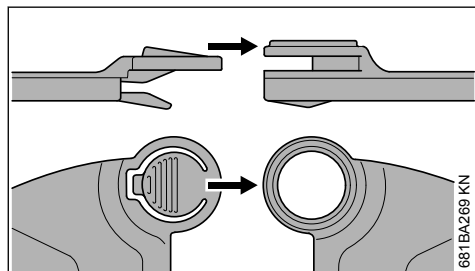
- ▶ 再給油後、手動燃料ポンプにすでに燃料が充填されている場合でも、燃料ポンプを最低 5 回押してください。
- ▶ チョークノブをエンジン温度に合った位置に合わせます。
- ▶ エンジンを再始動します。

**13 機械の運搬****13.1 運搬用ガードの使用**

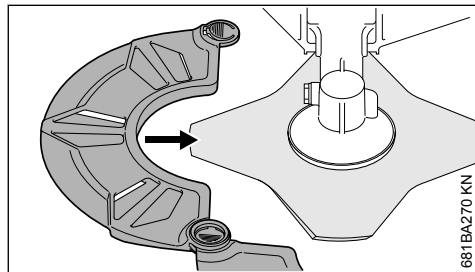
運搬用ガードの種類は、機械に同梱されている金属製カッティングアタッチメントによって異なります。運搬用ガードは、特殊アクセサリとして入手することができます。

**13.2 230 mm 草刈ブレード**

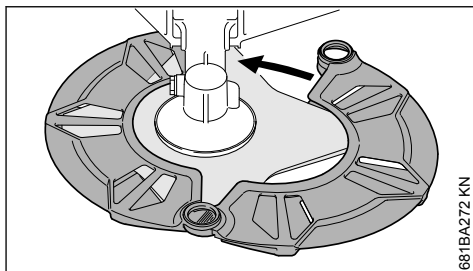
681BA268 KN



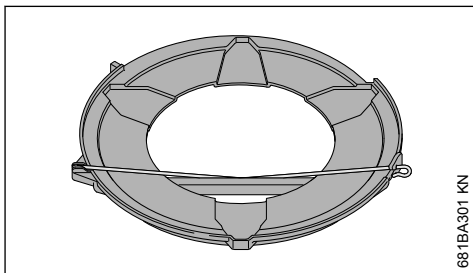
681BA269 KN



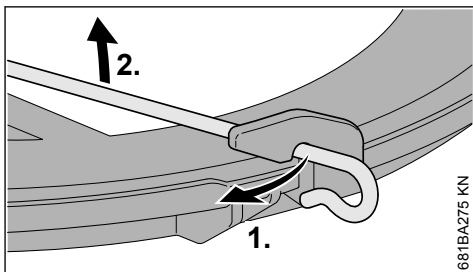
681BA270 KN



681BA272 KN

**13.3 260 mm までの草刈ブレード**

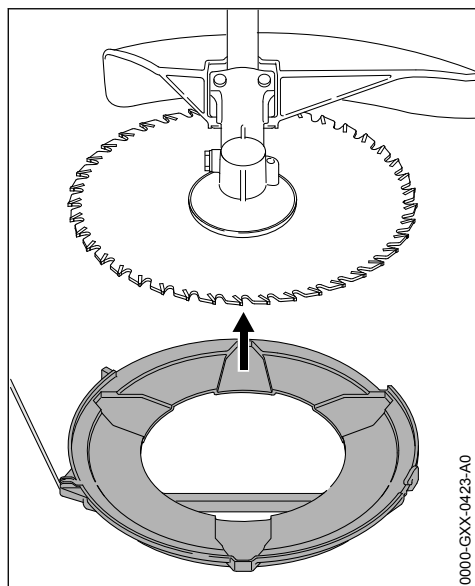
681BA301 KN



681BA275 KN

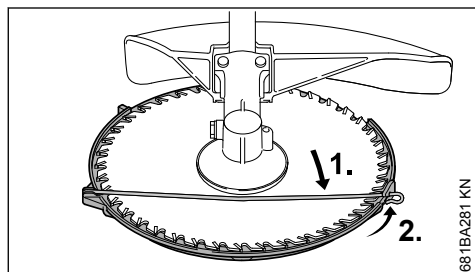
- ▶ 運搬用ガードからワイヤーロッドを外します。
- ▶ ワイヤーロッドを外側に回転させます。





000C-GXX-0423-A0

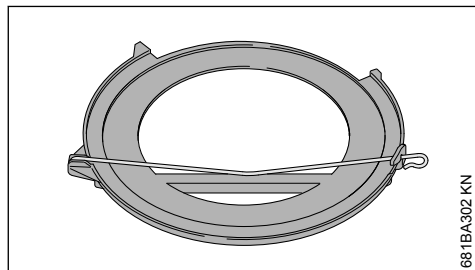
- ▶ 運搬用ガードを下側からカッティングアタッチメントに取り付けます。



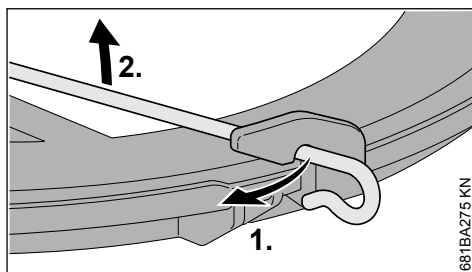
681BA281 KN

- ▶ ワイヤーロッドを運搬用ガードに引っ掛けます。  
▶ ワイヤーロッドを所定の位置に合わせます。

### 13.4 サークュラソーブレード

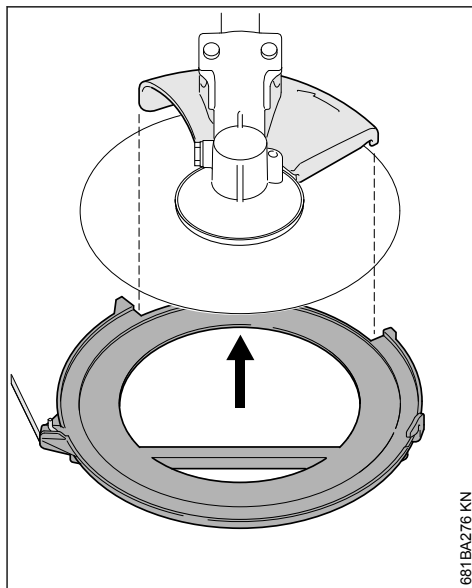


681BA302 KN



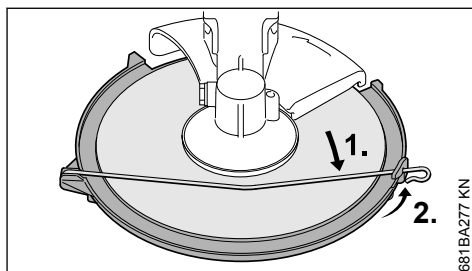
681BA275 KN

- ▶ 運搬用ガードからワイヤーロッドを外します。



681BA276 KN

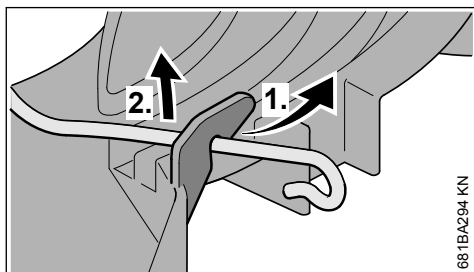
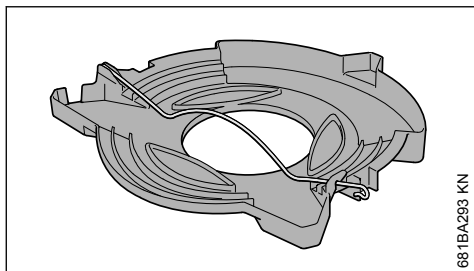
- ▶ ワイヤーロッドを外側に回転させます。  
▶ 運搬用ガードを下側からソーブレードに取り付け、リミットストップが適切に溝に配置されていることを確認します。



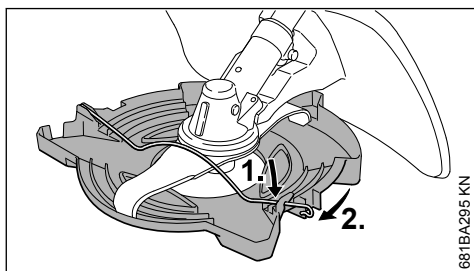
681BA277 KN

- ▶ ワイヤーロッドを所定の位置に合わせます。  
▶ ワイヤーロッドを運搬用ガードに引っ掛けます。

## 13.5 汎用運搬用ガード



- ▶ 運搬用ガードからワイヤーロッドを外し、外側へ回転させます。



- ▶ 運搬用ガードを下側からカッティングアタッチメントに取り付けます。
- ▶ ワイヤーロッドを運搬用ガードのフックに引っ掛けます。

## 14 作業中の注意事項

### 14.1 ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5～15 回分の使用後となります。

### 14.2 作業中

長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品(イグニッションやキャブレター)を熱から守るためです。

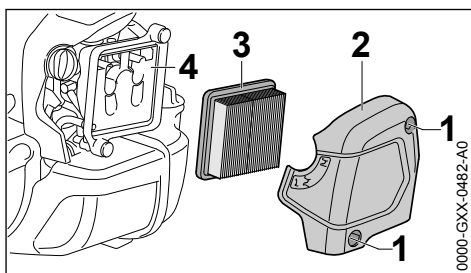
### 14.3 作業後

短期間使用しない場合：エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを空にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。長期間に未使用の場合は、「機械の保管」を参照してください。

## 15 エアークフィルターの交換

フィルターの平均寿命は、1 年以上です。出力が顕著に低下しないかぎり、フィルターカバーを取り外したり、エアークフィルターを交換したりしないでください。

### 15.1 エンジン出力が著しく低下した場合



- ▶ チョークノブを 1 の位置に回します。
- ▶ スクリュー (1) を緩めます。
- ▶ フィルターカバー (2) を取り外します。
- ▶ フィルター周囲の浮いた汚れを取り除きます。
- ▶ フィルターエレメント (3) を取り外します。
- ▶ 汚れているか、損傷しているフィルターエレメント (3) は交換してください。
- ▶ 損傷した部品は交換してください。

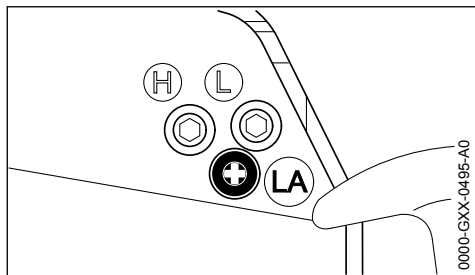
### 15.2 フィルターエレメントの取り付け

- ▶ フィルターエレメント(3)をフィルターハウジングに取り付け、カバーを取り付けます。
- ▶ スクリュー (1) を差し込み、しっかりと締め付けます。

## 16 キャブレターの調整

キャブレターは、大半の運転条件下で混合気が最適化されるよう工場出荷時に設定されています。

## 16.1 アイドリング回転数の調整

**アイドリング回転中にエンジンが停止する場合**

- ▶ エンジンを約 3 分間、暖機します。
- ▶ エンジンの回転がスムーズになるまでアイドリングスピード調整スクリュー (LA) を時計回りにゆっくりと回転させます - カuttingアタッチメントは停止していなければなりません。

**アイドリング回転中にCuttingアタッチメントが回転する場合**

- ▶ Cuttingアタッチメントが停止するまでアイドリングスピード調整スクリュー (LA) を反時計回りにゆっくりと回転させた後、同一方向にさらに 1/2 回転から 3/4 回転させます。

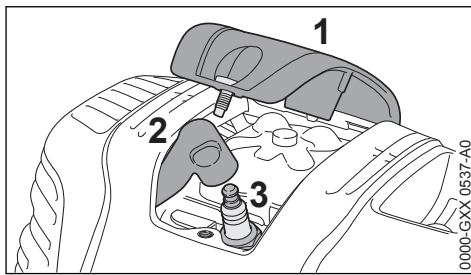
**警告**

アイドリング中にCuttingアタッチメントが回転し続ける場合は、STIHL サービス店に点検と修理を依頼してください。

## 17 スパークプラグ

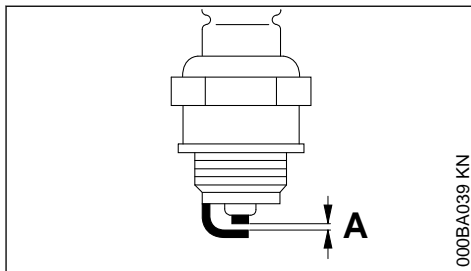
- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパークプラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

## 17.1 スパークプラグの取り外し



- ▶ カバー (1) を取り外します。
- ▶ スパークプラグターミナル (2) を抜き取ります。
- ▶ スパークプラグ (3) を緩めます。

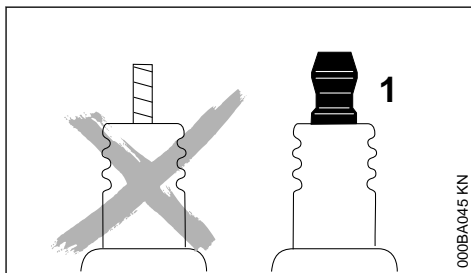
## 17.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルター汚れ
- 劣悪な使用環境





警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

### 17.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ スパークプラグ (3) をシリンダーにねじ込みます。
- ▶ コンビネーションレンチを使用してスパークプラグ (3) を締め付けます。
- ▶ ターミナル (2) を確実にスパークプラグに押し込みます。
- ▶ カバー (1) を取り付け、しっかりと締め付けます。

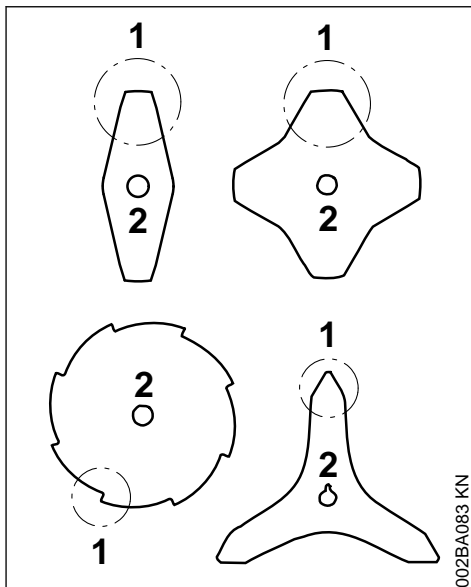
## 18 機械の保管

約 30 日以上使用しない場合

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合は、手動燃料ポンプを 5 回以上押します。
- ▶ エンジンを始動し、停止するまでアイドルリングさせます。
- ▶ カutting アタッチメントを取り外し、きれいにし点検してください。金属製カutting アタッチメントを腐食防止剤でコーティングしてください。
- ▶ 機械を丁寧に掃除します - 特にシリンダーフィンとエア フィルターに注意します。
- ▶ 機械を乾燥した、安全な場所に保管してください - 子供などによる許可外の使用を避けてください。

## 19 金属製カutting ブレードの目立て

- ▶ 目立てやすり (「特殊アクセサリ」を参照) を使用して、切れ味が悪くなったカutting アタッチメントを目立てします。磨耗が激しい場合は：グラインダーを使って目立てをするか、サービス店に依頼してください - 当社は、STIHL サービス店に依頼されることを、お勧めします。
- ▶ 目立てはたびたび行い、ほんのわずかに刃先を擦ります。通常の日立てでは、やすりを 2~3 回当てることで十分です。



- ▶ 刃先(1) を均一に目立てします - 元刃(2) の形状を変えないでください。

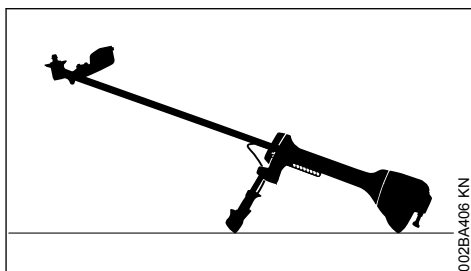
補足的な目立ての注意事項は、カutting アタッチメントの包装を参照してください。パッケージを今後のために保管してください。

### 19.1 バランスをとる

- ▶ 約 5 回やすりがけした後は、STIHL バランサー (「特殊アクセサリ」を参照) でカutting アタッチメントのバランスが崩れていないか確認するか、または専門店に確認を依頼してください - 当社は、STIHL サービス店に依頼されることを、お勧めします。

## 20 カutting ヘッドの保守

### 20.1 パワーツールを地面に置く



- ▶ エンジンを停止します。

- ▶ カutting アタッチメント装着部が上向きになるように、パワーツールを置きます。

## 20.2 ナイロンラインの交換

必ず草刈ヘッドが摩耗していないか点検してからナイロンラインを交換してください。



**警告**

摩耗がひどい場合、草刈ヘッド一式を交換してください。

以降では、ナイロンカuttingラインを「ナイロンライン」または「ライン」と呼びます。

草刈ヘッドには、ナイロンラインの交換に関するイラスト付きの説明書が同梱されています。草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。

- ▶ 必要に応じて、草刈ヘッドを取り外します。

## 20.3 ナイロンラインの送り出し調整

### STIHL スーパーカット

ラインが最低 6 cm (2 1/2 インチ) 残っている場合は、新しいラインが、自動的に送り出されます。長すぎるラインは、デフレクターのブレードで適切な長さに切り揃えられます。

### STIHL オートカット

- ▶ エンジンを作動させ、草刈ヘッドを回転させたまま草地の上方で保持します。
- ▶ 地面上で軽く叩きます - 新しいラインが送り出され、デフレクターのブレードで適切な長さに切り揃えられます。

草刈ヘッドで地面を軽く叩くたびに新しいラインが送り出されます。そのため、作業中は草刈ヘッドの切断性能を観察してください。草刈ヘッドで地面を頻繁に叩き過ぎると、ナイロンラインの未使用部分がライン制限ブレードによって不必要に切り落とされます。

両方のラインが最低 2.5 cm (1 in) 残っていれば、ラインは送り出されます。

### STIHL トリムカット



**警告**

ケガをする危険を減らすために、必ずエンジンを停止してから手でナイロンラインを調整してください。

- ▶ スプールを引き上げ - かみ合うまで反時計回りに約 1/6 回転させ - 跳ね戻します。
- ▶ ラインの端を外側に引き出します。

両方のラインがデフレクターのライン制限ブレードに達するまで、上記の手順を必要に応じて繰り返します。

スプールが停止位置から次の停止位置まで回転すると、新しいラインが約 4 cm (1 1/2 in) 繰り出されます。

## 20.4 ナイロンラインの交換

### STIHL ポリカット

カutting ブレードの代わりに、事前に所定の長さに切断したナイロンラインをポリカットに取り付けることができます。

### STIHL デュロカット、STIHL ポリカット



**警告**

ケガをする危険を減らすために、必ずエンジンを停止させてから草刈ヘッドの詰め替えを行ってください。

- ▶ 同梱されている取扱説明書の説明に従い、事前に切断したナイロンラインを草刈ヘッドに取り付けます。

## 20.5 カutting ブレードの交換

### 20.5.1 STIHL ポリカット

新しいカutting ブレードを取り付ける前に、必ずカutting ヘッドが摩耗していないか点検してください。



**警告**

摩耗がひどい場合、カutting ヘッド一式を交換してください。

以降の部分では、プラスチック カutting ブレードを「ブレード」と呼びます。

カutting ヘッドは、ブレードの交換に関するイラスト付きの説明書が同梱されて納入されます。カutting ヘッドに関する取扱説明書を、安全な場所に保管してください。



**警告**

ケガの危険を低減するため、ブレードを取り付ける前に必ずエンジンを停止してください。

- ▶ カutting ヘッドを取り外します。
- ▶ イラスト付き説明書に図示されているようにブレードを交換します。
- ▶ カutting ヘッドを再び取り付けます。

## 21 整備表

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が通常よりも長い、作業条件が悪い場合（粉塵が非常に多い場所など）は、それに応じて表に示された間隔よりも短くしてください。			毎日 または 作業終了後	毎月 または 材料交換時	毎年	毎年	数年ごと	必要に応じて
機械本体	目視検査(状態、漏れ)	X		X				
	清掃		X					
	損傷部品の交換	X					X	
コントロールハンドル	機能テスト	X		X				
エアフィルター	目視検査				X		X	
	交換 <sup>2)</sup>						X	
手動燃料ポンプ（装備モデルのみ）	点検	X						
	修理はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>						X	
燃料タンク内のピックアップボディ	点検はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>					X		
	交換は サービス店に依頼してください <sup>1)</sup>				X		X	X
燃料タンク	清掃					X		X
キャブレター	アイドリング調整の点検（カッティングアタッチメントが回転しないこと）	X		X				
	アイドリング回転数の調整							X
スパークプラグ	電極ギャップの設定					X		
	100 運転時間ごとに交換							
冷却風吸入部	目視検査		X					
	清掃							X
シリンダーフィン	清掃はサービス店に依頼してください <sup>1)</sup>				X			
バルブクリアランス	出力が低下しているか、始動に必要な力が必要なときは、バルブクリアランスを点検し、必要に応じてサービス店 <sup>1)</sup> に調整を依頼してください					X		X
燃焼室	150 運転時間毎にサービス店 <sup>1)</sup> に清掃を依頼してください							X
すべての手の届くスクリーン、ナット、ボルト（調整スクリーンを除く）	締め付け							X
防振エレメント	点検	X				X		X
	交換は サービス店に依頼してください <sup>1)</sup>						X	

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が通常よりも長い、作業条件が悪い場合（粉塵が非常に多い場所など）は、それに応じて表に示された間隔よりも短くしてください。		推奨 整備 間隔	推奨 交換 部品	推奨 交換 部品	推奨 交換 部品	推奨 交換 部品	推奨 交換 部品	推奨 交換 部品	推奨 交換 部品
カッティングアタッチメント	目視検査	X		X					
	交換							X	
	確実に取り付けられているか確認	X		X					
金属製カッティングツール	目立て	X							X
安全情報ラベル	交換							X	
<sup>1)</sup> STIHL では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています <sup>2)</sup> エンジン出力が著しく低下した場合のみ									

## 22 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したこと起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- － スチールが許可していない製品の改造。
- － 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリを使用。
- － 指定外の目的に当製品を使用。
- － スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- － 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

### 22.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- － 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エア フィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンドラーフィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- － 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- － 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

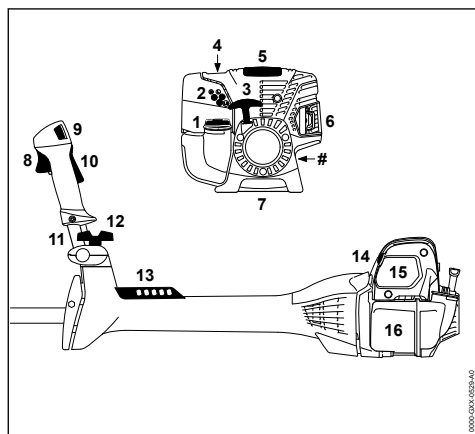
### 22.2 磨耗部品

パワーツールの部品によっては、規定どおりに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

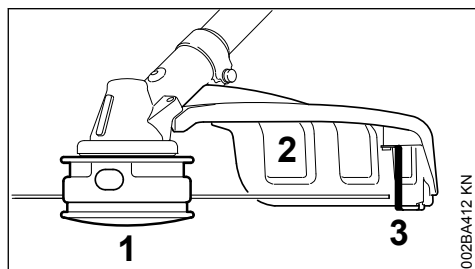
- － カッティング アタッチメント (全種)
- － カッティング アタッチメント固定用パーツ (ライダープレート、ナット等)
- － カッティング アタッチメント用デフレクター
- － クラッチ
- － フィルター (エア フィルター、燃料フィルター)
- － リワインド スターター
- － スパーク プラグ
- － 防振エレメント



## 23 主要構成部品



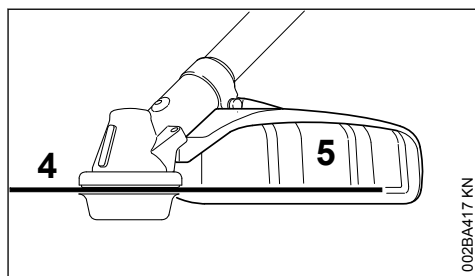
- 1 タンクキャップ
- 2 キャブレター調整スクリュー
- 3 スターターグリップ
- 4 手動燃料ポンプ
- 5 カバー
- 6 マフラー
- 7 マシンサポート
- 8 スロットルトリガー
- 9 ストップスイッチ
- 10 スロットルトリガーロックアウト
- 11 バイクハンドル (ハンドルバー)
- 12 クランプスクリュー
- 13 肩掛けベルト
- 14 チョークノブ
- 15 エアーフィルターカバー
- 16 燃料タンク
- # 機械番号



### 1 草刈ヘッド

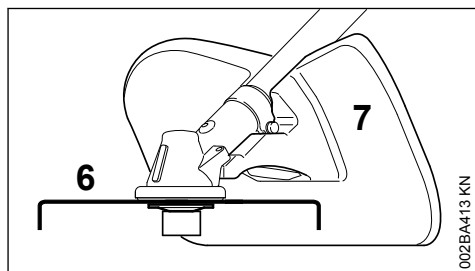
### 2 草刈ヘッド専用デフレクター

### 3 ブレード



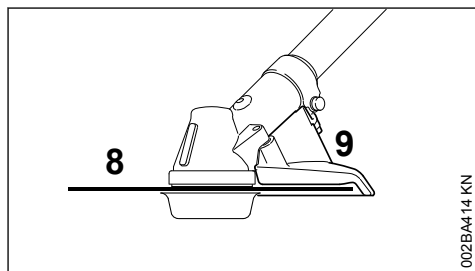
### 4 金属製カuttingアタッチメント

### 5 デフレクター (金属製カuttingアタッチメント用)



### 6 シュレッダーブレード

### 7 シュレッダーデフレクター (シュレッダーブレードを使用した細断専用)



### 8 サークュラソーブレード

### 9 リミットストップ (サーキュラソーブレード専用)

## 24 技術仕様

### 24.1 エンジン

STIHL 単気筒 4 ストロークエンジン( 混合燃料使用 )

排気量:	36.3 cm <sup>3</sup>
シリンダー径:	43 mm
ピストンストローク:	25 mm
ISO 8893 に準拠した出力:	1.4 kW ( 1.9 PS ) 8500 rpm 時
アイドリング回転数:	2800 rpm
回転数制御範囲 ( 公称値 ):	10200 rpm
出力シャフトの最高回転数 ( カッティングツールの取付部 ):	7360 rpm
バルブクリアランス	
吸気バルブ:	0.10 mm
排気バルブ:	0.10 mm

### 24.2 イグニッションシステム

エレクトロニクスマグネトイグニッション

スパークプラグ ( 雑音防止 ):	NGK CMR 6 H、 STIHL ZK C 1 0、 BOSCH USR 4AC
電極ギャップ:	0.5 mm

### 24.3 燃料システム

燃料ポンプ搭載全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量: 710 cm<sup>3</sup> (0.71 l)

### 24.4 重量

燃料なし、カッティングツールおよびデフレクターなしの状態:

### 24.5 全長

カッティングツールなし: 1800 mm

### 24.6 騒音・振動数値

音響値・振動値は、アイドリング回転数と最大定格回転数を等しくして測定したものです。

振動に関する事業主への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

[www.stihl.com/vib](http://www.stihl.com/vib) をご覧ください。

#### 24.6.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル $L_{peq}$

草刈ヘッド付き: 99 dB(A)

金属ツール付き: 98 dB(A)

#### 24.6.2 ISO 22868 に準拠した音響パワーレベル $L_{w\text{eq}}$

草刈ヘッド付き: 107 dB(A)  
金属ツール付き: 107 dB(A)

#### 24.6.3 ISO 22867 に準拠した振動値 $a_{hv,eq}$

	左ハンドル	右ハンドル
草刈ヘッド付き:	2.2 m/s <sup>2</sup>	2.8 m/s <sup>2</sup>
金属ツール付き:	2.9 m/s <sup>2</sup>	2.9 m/s <sup>2</sup>

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s<sup>2</sup> です。

### 24.7 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (CHemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

[www.stihl.com](http://www.stihl.com)

### 24.8 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO<sub>2</sub> 値は、以下に記載されています -

[www.stihl.com/co2](http://www.stihl.com/co2)

(製品ごとの技術データ)。

CO<sub>2</sub> 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。

## 25 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

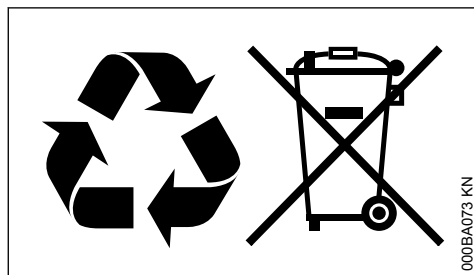
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク **G** が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

## 26 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

## 27 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG  
Badstr. 115  
D-71336 Waiblingen  
Germany (ドイツ)

は、独占的な責任下で下記の製品が

名称：	クリアリングソー
メーカー名：	STIHL
型式：	FS 311
シリーズ番号：	4180
排気量：	36.3 cm <sup>3</sup>

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU および 2000/14/EC の関連する条項に適合しており、製造日に有効であった次の規格の版に準拠して開発 製造されたことを保証いたします：

EN ISO 11806-1、EN 55012、EN 61000-6-1

音響出力レベルは、測定値および確保数値共に、2000/14/EC の付録 V と規格 ISO 10884 に基づいています。

### 音響出力レベル測定値

110 dB(A)

### 音響出力レベル保証値

112 dB(A)

技術資料の保管場所：

ANDREAS STIHL AG & Co. KG  
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

01.08.2022、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人

Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs  
& Global Governmental Relations

CE

## 28 アドレス

[www.stihl.com](http://www.stihl.com)



[www.stihl.com](http://www.stihl.com)



0458-433-4321-B



0458-433-4321-B